特集

地域共生社会の実現に向けて

～あかね保育所・福室希望園の実践事例紹介～

地域との交流を重ねて

今回の特集では、2つの保育所等の地域共生社会の実現に向けた取組をご紹介します。

まずは、宮城県の東部に位置する多賀城市のあかね保育所・中鉢義徳所長にお話を伺いました。

あかね保育所は、周りを田園に囲まれた閑静な地域にあります。

取り組んでいることを教えてください。

近隣の老人クラブとの交流に長年力を入れております。毎年春に市民農園を借り、老人クラブの方々と子どもたちとで種を蒔いて秋に収穫祭を行っています。正月には、老人クラブの方々に昔遊びを教わりながら交流し、教える側も教えられる側も喜んでいます。しかし、コロナ禍で一部が中止となりました。高齢者や子どものことを考えると、慎重にならざるを得ないと感じています。

近隣の方々との交流が一番の「地域共生社会の実現に向けた取組」と思っています。老人クラブの高齢者も、施設に入所している高齢者も保育所の子どももみんなが喜びます。それが「共生」、共に生きることだと思います。子どもにも良い経験になり、その積み重ねで将来、子どもたちが「高齢者施設や保育所で働いてみよう」になってくれれば良いと考えています。

自然と「福祉教育」になっているということですか。

そうだと思います。子どもたちには「福祉への意識」を持ってもらいたいと考えています。

地域と交流を持つことで、地域の実情を把握できているという考えですね。

子どもが保育所に入れない親、子育てに困っている親、悩みを抱えたひとり親等、地域で困っている保護者は多いです。

ここからは構想ですが、例えば、地域の人々や小・中学校を巻き込み、子育て世代以外の方が「近くに子どものことで悩んでいる人がいるみたいだ」と相談の受け皿となれればと考えています。

また、地域と教育と家庭が一緒になって、「地域の子ども」を育てていくことも目指したいです。昔は、地域の怖いおじさんによく叱られることがありましたが、子どもたちに地域の目が届いている証拠でもあると思います。そういった地域の人々が子どもを見てくれるようになってほしいです。

分野の垣根を超えるにはどうしたら良いと思いますか？

あかね保育所の職員には、地域共生社会の実現に向けた視点を持ってもらうために、介護福祉施設や障害福祉施設に行って、他の職種を経験してもらいたいと思っています。保育士は保育のことだけを考えていてはダメだと考えているので、他職種を経験し、幅広い視野を持っていてほしいです。いずれ自分のためにもなると思うので、保育ばかりではなく、いろんな経験や体験をしてほしいと職員へ常々伝えています。

宮城県地域共生社会推進会議に期待することを聞かせてください。

制度や分野ごとの縦割りや支える・支えられるという関係を超え、地域住民や多様性を他人事ではなく、我が事と思って参画できること。立場的な観点から言うと、特に子育てで悩んでいる保護者に対して、行政を巻き込んで地域や社会福祉法人がしっかりと対応できる社会が目標となれば良いと思います。

あかね保育所　概要

- 設置主体・運営主体
  社会福祉法人おひさまと月の里
- 所在地
  宮城県多賀城市
- 開設年月日
  平成23年4月1日
- 利用定員
  100人

▲地元高齢者施設で交流を図っている子どもたち

▲あかね保育所・中鉢所長

民生委員との連携で地域の子育て・見守りを行っています。

福室希望園は、平成10年4月に子育て支援センター（※1）併設保育園として開設し、今年で25年目を迎えました。

今回、社会福祉法人希望園　統括責任者の髙野幸子さんにお話を伺いました。

設立当時の状況について教えてください。

福室希望園の設立当時から、民生委員とのつながりには非常に深いものがありました。私自身、別の地区の保育園から異動し、当時は福室地区のことはさっぱり分かりませんでした。加えて、仙台市内で子育て支援センターを初めて開設しましたが、仙台市も初めてのことで何をしたらいいか分からない状況でした。まずは、地域の方々の声を聞き、子育て支援センターに何を求めているのかを知ることが一番と考えました。その時に民生委員の方々にたくさん助けていただきました。

当時から、民生委員の方々が子育てサークルのようなもの開いていましたが、民生委員は、今も当時も70歳を超えた高齢の方々ばかりです。一方で、保護者は20代の若い方々。お互いに話が全然合わないようでした。そこで、民生委員が子育て支援センターを持つ我々の保育園の若い先生方に声掛けし、一緒に子育てサークルを行うようになりました。それ以来、民生委員との深い連携が始まりました。

子育てサークルの他に行っていることを具体的に教えてください。

民生委員と一緒に福室希望園でサロンを開いています。また、敬老会に子どもたちが呼ばれ、歌ったり、お遊戯をしています。そこから、「敬老会だけでなく、日頃から交流したいですね」と言われ、4月の「花の日」のイベントでは子どもたちが民生委員と一緒に市営住宅に住んでいる一人暮らしの高齢者宅へお花を持ってまわりました。9月の敬老会では、高齢者が得意なお箸を使った豆掴み競争等を子どもたちと行いました。高齢者が勝つと、子どもたちは「おじいちゃん（おばあちゃん）、すごいね！」と言って、目をキラキラさせています。そういう関わりが子どもたちには良い教育となっています。10月にある福室希望園の運動会では、高齢者をお招きし、子どもたちと一緒にお昼ご飯を食べることにしていますが、コロナ禍でできることが限られてきています。

民生委員が地域の鍵を握っているということですか。

民生委員の存在なしでは福室希望園はありませんでした。本当に助けていただきました。

民生委員との深い連携のおかげで、意識せずに「地域共生社会の実現」に取り組めていると感じています。また、地域に根差した取組をやらないといけない、と今でも思っています。

宮城県地域共生社会推進会議に期待することを聞かせてください。

宮城県でこのようなプラットホームがあれば、社会的に何をしなければならないかを他の分野の方々も考えるようになって、「地域共生社会の実現」への意識が広まると思います。その前に、もっとその存在を広めるべきなのではないでしょうか。このような素晴らしいプラットホームがあることを知らない保育関係者・福祉関係者がまだまだいると思います。そうすれば、もっと仲間は増えると思います。

（県社協取材）

福室希望園　概要

- 設置主体・運営主体
  社会福祉法人希望園
- 所在地
  宮城県仙台市宮城野区
- 開設年月日
  平成10年4月
- 利用定員
  110人

※「子育て支援センター」とは
子育て家庭の交流の場の提供と交流の促進や子育て等に関する相談、援助の実施など、地域の子育て家庭が「喜び」と「ゆとり」を持って子育てができることを目的とした場のこと（仙台市ホームページ抜粋）

▲感謝祭に招かれた地域の高齢者と民生委員の方々

▲社会福祉法人希望園統括責任者の髙野 幸子さん